

## 計画策定の趣旨

「歯科口腔保健の推進に関する法律」及び「熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例」に基づき、歯及び口腔の健康づくりを総合的かつ効果的に推進するために策定

## 計画期間

平成30年度から平成35年度（6年間）



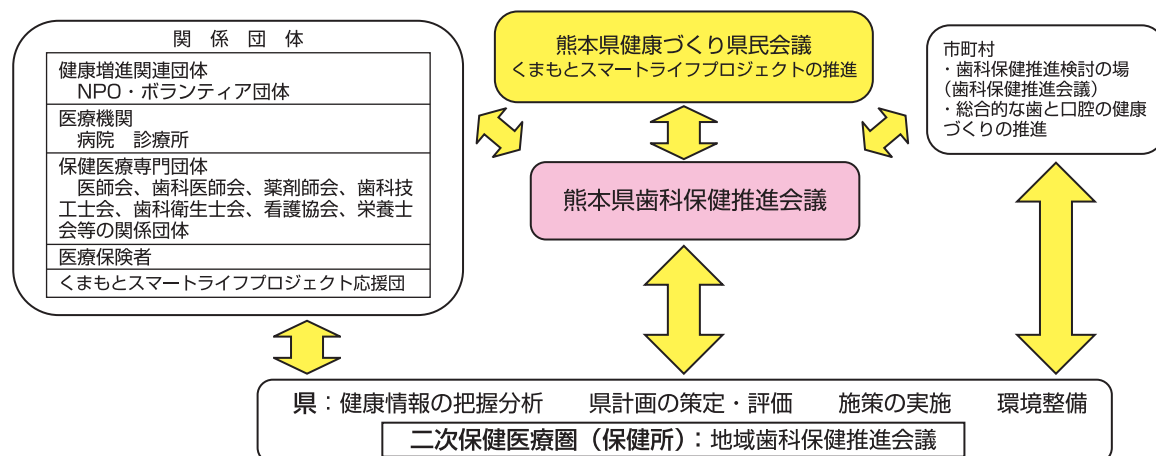
## 基本方針

すべての県民が、その年齢又は心身の状況に応じた良質な歯及び口腔に係るサービスの提供を受けることができるようにする

## 重点目標

- 1 各ライフステージの一次予防に重点を置いた歯科疾患の予防
- 2 障がい児（者）、要介護者等に対する歯科保健医療体制の充実
- 3 在宅歯科連携体制の整備
- 4 災害時における歯科保健医療体制の整備
- 5 医科歯科連携の推進

## 推進体制



## （早産予防／糖尿病／がん診療／回復期）

### 課題は！

**【早産予防】** 本県の低出生体重児及び極低出生体重児の出生割合は全国平均より高く推移しています。妊婦が歯周病になると早産となりやすいことから、産科、歯科医療機関、行政の連携による早産予防対策の拡大が必要です。

**【糖尿病対策】** 歯周病は糖尿病の合併症であり、多くの糖尿病患者が重度の歯周病を併発しています。HbA1cを共通指標として、各二次保健医療圏において医科、歯科、さらに、調剤薬局や市町村等と連携した取り組みが必要です。

**【がん診療】** がん治療では 口腔合併症等の口腔のトラブルが高頻度で起こることが報告されています。がん治療に伴う口腔合併症や肺炎発症の予防を図るために、口腔ケアや歯科治療を行う歯科診療所とがん治療を行う医科との連携が必要です。

**【回復期】** 高度急性期から在宅療養につなぐ回復期において、医科と歯科が連携することで、誤嚥性肺炎や口腔機能の低下を防止し、入院患者のQOL向上や早期回復に寄与することとなるため、回復期病院と歯科診療所等との連携を深める必要があります。

### 目標

現状（H29）

目標（H35）

がん診療医科歯科連携紹介患者数の増加 年間 1,140 人 ⇒ 年間 2,000 人

医科歯科連携を行う回復期病院数の増加 6 病院 ⇒ 20 病院

### 歯科受診のススメ （歯周病予防のために）

歯周病と糖尿病は、実は相互に影響し合っています。実際に、糖尿病の方の約80%には歯周病があるとされています。歯周病は、歯を支えている骨（歯槽骨）が溶けてしまう病気です。歯周病は歯の表面につく歯垢（歯の汚れ）によって起こる文字通り、「歯の周りの病気」です。歯内の炎症による出血、腫れを特徴とする歯肉炎と、歯を支えている歯槽骨が破壊される歯周炎とに分けられます。歯周病には痛みなどの自覚症状がほとんどありません。そのため、気が付いた時にはすでに手遅れになってしまっていることが多いというのが、歯周病の怖いところですね！

#### 1 糖尿病が歯周病に影響するのはなぜ？

糖尿病の人は歯を守るための免疫機能が低下するので、歯垢が出にくくなる口が乾燥し細菌が繁殖しやすい環境に変わってしまうのです。また高血糖により歯肉組織の機能が弱く炎症を起こし、血糖のコントロールがうまくいかないと歯周病は急速に悪化していくのです。

#### 2 逆に歯周病が糖尿病に及ぼす影響は？

歯周病を引き起こす細菌が歯肉組織から血管に入り込むと、血糖値を下げるホルモン（インスリン）の働きを妨げる作用を持つ物質（サイトカイン）が血液中に放出されてしまいます。よって、糖尿病は悪化するのです。

#### 3 生活習慣を見直しましょう

糖尿病も歯周病も生活習慣病です。食生活やライフスタイルを見直すことで改善していきましょう。糖尿病の治療のために生活習慣を見直すことは、歯の健康のためにもなります。また、歯周病の治療により血糖値が落ちたという報告もあります。



糖尿病予防及び改善のために歯科受診を促すポスター

### 目標を達成するために !!

- 「早産予防対策」に取り組む市町村を拡大するとともに、妊婦等への歯科検診受診の必要性について啓発します。
- 二次保健医療圏毎の糖尿病・歯周病医療連携ネットワークを構築し、医科・歯科・薬科が連携した長期的な治療及び支援を行います。また、「歯周病セルフチェック票」等の連携ツールの活用を促進します。
- がん診療における医科歯科連携に携わる人材育成と地域における連携体制の整備を促進します。また、がん診療を行う医療機関及びがん診療連携登録歯科医の確保を行います。